## 吉田有理 福島民報 連載コラム

## 圏外のアンテナ

## [怪盗ルパン]の巻

盗難にあった自転車を、自力で取り戻した青年の話が、テレビで紹介されていた。

盗品は、ロードタイプの高級車。

「犯人はネット・オークションに出品するに違いない!」とにらんだ彼は、登録した品物が出品されるとメールが届くように「アラート」を設定。

数日後、知らせが来て画像を見るとサドルに傷がある。愛車だと確信した青年は警察に通報。見事犯人を捕まえた。

へえっ~?と、見ていたわたしの脳裏に、似たような出来事の思い出が。

わたしの場合は、大切にしていた本だった。タイトルは「怪盗ルパンの時代」。

須賀川三小の図書館で出会って以来、長年、ルパンを理想の男性だと思いつづけてきた。そのルパンを生んだフランスの「ベル・エポック」時代の文化やファッションを解説した、ちょっと珍しい大人の一冊。

なのに、五年ほど前、わたしはその愛読書を熊本空港のラウンジに忘れてしまった。数回電話 をしても見つからない。まるで煙のように、消えてしまったのである。

どうしても、あの本を持っていたい! 考えあぐねて、オークション・アラートを設定。なくした本が見つかる可能性はないだろうが、ひょっとしたら、ご同輩が片付けか何かをして、同じ本を出品する日もあるだろう……。

待ち焦がれる事1年、ついにアラートが鳴った!

落札した本の包みを開いて、パラパラとページをめくった瞬間、わたしは思わず吹き出してしまった。

扉のページ。シルクハットのイラストの下に、ルパンの顔を落書きして、どじょうみたいな口 ひげを蓄えさせた鉛筆の跡が、うっすらと残っていたのである。

ゲゲ、これ、わたしが描いた落書きじゃないか!

神出鬼没の怪盗ルパンにかかれば、消えた本さえ、奇跡のブーメランのように、戻ってくるのであった。

=2016年11月1日掲載=